

【2学期開始】仲間と共に限界突破！

【2学期始業式式辞】

いよいよ2学期がスタートします。まずは皆さんが元気に始業式を迎えられることをとても嬉しく思っています。

猛暑の夏休み、南中生は常に熱中症アラートに注意を払い体調管理をしながら、水分補給のタイミング、活動時間も考えて、自分磨きに取り組んでいました。その活動を支えてくれた保護者の方々や顧問の先生方にも心から感謝します。さて、校内での活動に加えて四国総体や全国大会、青少年弁論大会、音楽コンクール、または海外で行われた大会に挑んだ仲間もこの中にいます。それらの経験から受けた影響や学んだことを自らの成長につなげ、学校生活に前向きな効果をもたらすよう取り組んで欲しいです。

また、自然災害についても考えさせられた夏休みでした。8月8日に宮崎県で震度6弱を観測した地震、それにともなって出された南海トラフ緊急地震情報や先週の台風情報・大雨警報に基づいて、さまざまな対応・対策がとられました。常に最新の情報をもとに、状況に応じた判断や工夫が求められていることを考えさせられた夏休みだったと思います。今後も、できる限りの対策や対応を学び、冷静に行動できる集団を目指していきましょう。今朝、全校一斉に行った避難訓練もその1つです。訓練を通して感じた課題や疑問を共有し、よりよい対策ができるよう声をかけ合ひましょう。

さて、今年度がスタートした1学期の始業式では、学校スローガン『南中生よ、互いに切磋琢磨し仲間と共に限界突破 ～凡事徹底、思考・行動の質を高め、躍進の一年に～』について話をしました。皆さんにはいつも心に留めて、人との関わりの中で成長することを期待しています。

本日2学期のスタートにあたり、凡事徹底の1つとして「挨拶」について話をします。南中生はよく挨拶ができると学校を訪れる方々から褒められます。また部活の試合応援に行ったとき会場で南中生が挨拶する様子を見て他校の先生方から「南中の生徒いいですね」と言われることもあります。

これらのことから、南中生は、今現在いい挨拶ができていると捉えることができますが、2学期は、更にレベルを上げて「心のこもった挨拶」を拡げてほしいと思います。

さて、心のこもった挨拶とはどんな挨拶でしょうか。みなさん、どのようなあいさつの仕方や様子が浮かびますか。

元気な声で、笑顔で、爽やかに、立ち止まって相手の目を見て、その場の状況によってはだまってお辞儀ことが求められるなど、場面に応じて、最適な形を使い分ける必要があります。つまり正解は1つではありません。

いずれにせよ、あいさつは人と人とのコミュニケーションの第一歩です。できる範囲でいいので、レベルアップした心のこもった挨拶を心がけ拡げていきましょう。これまでの習慣をレベルアップすることは一人で簡単ではありませんが、学校全体で一斉に取り組めば、「心のこもったあいさつの輪」が大きくなります。相手への敬意が伝わり、関係性はこれまで以上に良くなると思います。

最後に、皆さんが2学期を、より充実させ、自分自身の目標達成・夢実現に向け歩んでいく際に、思い通りにいかないことや高いハードルを乗り越えなければならないことがあるかと思っています。一人で切り拓く力はもちろん必要ですが、人に支えてもらったり、ときには自分の言動が誰かの支えになったりすることも大切なことです。皆さんには、自分で切り拓く力と仲間と協働して乗り越える力の両方で成長を感じてほしいと願っています。

それでは、南中生が心のこもった挨拶を通して、人とつながり、豊かな人間関係の中で躍進することを期待して、2学期の式辞とします。

令和6年9月2日

徳島市南部中学校長 滝川 尚

